

授業計画(シラバス)

科目名	コミュニケーション論Ⅱ	指導担当者名	根本 真紀
実務経験			実務経験:
開講時期	通年	対象学科学年	スポーツビジネス科2年
授業方法	講義:◎	演習:○	実習: 実技:
時間数	32時間	週時間数	1時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を的確に評価・判断して取捨選択していく「状況判断力」の取得 ・情報を自分なりに解釈(理解)して意見に反映させていく「情報解釈力」の取得 ・解釈したものを他者に対して的確に発信していく「自己表現力」の取得 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	コミュニケーション検定公式ガイドブック&問題集		
授業外学習の方法	日常生活においてコミュニケーション論で学んだことを活用する。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	part1 chapter1 コミュニケーションのもつ力	コミュニケーションを考える
	2	part1 chapter2 聞く力	目的に即して聴く
	3	part1 chapter2 聞く力	傾聴・質問する
	4	part1 chapter3 話す力	目的を意識する
	5	part1 chapter3 話す力	話を組み立てる
	6	part1 chapter3 話す力	ことばを選び抜く
	7	part1 chapter3 話す力	表現・伝達する
	8	part2 chapter1 基礎	来客対応
	9	part2 chapter1 基礎	電話対応
	10	part2 chapter1 基礎	アポイントメント・訪問・挨拶
	11	part2 chapter1 基礎	情報共有の重要性
	12	part2 chapter1 基礎	チーム・コミュニケーション
	13	part2 chapter2 応用	接客・営業
	14	part2 chapter2 応用	クレーム対応
	15	part2 chapter2 応用	会議・取材・ヒアリング
	16	part2 chapter2 応用	面接
<p>履修上の留意点</p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	コミュニケーション論Ⅱ	指導担当者名	根本 真紀
実務経験			実務経験:
開講時期	通年	対象学科学年	スポーツビジネス科2年
授業方法	講義:◎	演習:○	実習: 実技:
時間数	32時間	週時間数	1時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を的確に評価・判断して取捨選択していく「状況判断力」の取得 ・情報を自分なりに解釈(理解)して意見に反映させていく「情報解釈力」の取得 ・解釈したものを他者に対して的確に発信していく「自己表現力」の取得 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	コミュニケーション検定公式ガイドブック&問題集		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	模擬問題	問題を解く。
	18	解説	解答及び解説
	19	過去問題①	問題を解く。
	20	解説	解答及び解説
	21	過去問題②	問題を解く。
	22	解説	解答及び解説
	23	過去問題③	問題を解く。
	24	解説	解答及び解説
	25	過去問題④	問題を解く。
	26	解説	解答及び解説
	27	過去問題⑤	問題を解く。
	28	解説	解答及び解説
	29	過去問題⑥	問題を解く。
	30	解説	解答及び解説
	31	過去問題⑦	問題を解く。
32	解説	解答及び解説	
<p>履修上の留意点</p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	キャリアプランⅡ	指導担当者名	根本 真紀
実務経験			実務経験:
開講時期	通年	対象学科学年	スポーツビジネス科2年
授業方法	講義:◎	演習:○	実習: 実技:
時間数	48時間	週時間数	2時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア(自分の生き方や働き方)について考え、計画することを学ぶ ・授業は、自分を知る・他人を知る・社会を知るの3つをキーワードにして展開する 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	・講師作成のプリントや資料		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	就職活動の確認	提出書類、履歴書等の書き方他
	2	就職活動の確認	自己PR・志望理由の確認
	3	言葉遣い	間違いやすい敬語の復習
	4	ビジネスメールの作り方	ビジネスメールの定型 ビジネスメールの注意点
	5	電話対応	正しい電話の受け方、かけ方
	6	キャリアデザインとは	自分を知る・他人を知る・社会を知
	7	コミュニケーションするとは	正確に伝えること ハウレンソウの大切さ
	8	自分を発見しよう	マインドマップの作成
	9	自分のPOPを作ろう	自分の特徴を知ろう
	10	自分をアピールしよう	自分を上手にアピールするには
	11	コンビニの弁当から職業を考える	職業と業種
	12	憧れの人に学ぶ	人間の才能とは
	13	未来予想図を作る	逆算思考で考える
	14	未来予想図を作る	MustとWhatを整理しよう
	15	金銭感覚について	未来予想図をもとにお金について考える
	16	生涯にいくら稼げるか	年収・年金から収入を考える
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	キャリアプランⅡ		指導担当者名	根本 真紀
実務経験				実務経験:
開講時期	通年	対象学科学年	スポーツビジネス科2年	
授業方法	講義:◎	演習:○	実習:	実技:
時間数	48時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア(自分の生き方や働き方)について考え、計画することを学ぶ ・授業は、自分を知る・他人を知る・社会を知るの3つをキーワードにして展開する 			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>			
使用教材	指導担当者作成のプリントを使用する			
授業外学習の方法				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	17	生涯にいくら稼げるか	老後にいくら必要か	
	18	社会の流れを知ろう	経済成長率から社会をみる	
	19	社会の流れを知ろう	日本の人口ピラミッドから社会をみる	
	20	今、求められている人材とは	企業と学生の認識のギャップ	
	21	社会で求められている人材になるには	自分の能力について 自分をバージョンアップさせる方法	
	22	自分を売り込もう	自分を様々な視点でしてみる	
	23	自分を売り込もう	言葉はマジック	
	24	あなたにとってのキャリアデザインとは	コミュニケーション力の大切さ	
	25	あなたにとってのキャリアデザインとは	準備する心	
	26	あなたにとってのキャリアデザインとは	発想法・思考法を上手に活用しよう	
	27	まとめ	「あなたにとってのキャリアデザインとは」というテーマでまとめる	
	28	まとめ	「あなたにとってのキャリアデザインとは」というテーマでまとめる	
	29	発表会	「あなたにとってのキャリアデザインとは」というテーマで発表	
	30	発表会	「あなたにとってのキャリアデザインとは」というテーマで発表	
31	キャリアビジョン作成	卒業後のキャリアビジョンを作成		
32	キャリアビジョン作成	卒業後のキャリアビジョンを作成		
履修上の留意点				
出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。				

授業計画(シラバス)

科目名	卒業研究		指導担当者名	根本 真紀
実務経験				実務経験:
開講時期	後期	対象学科学年	スポーツビジネス科2年	
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:
時間数	43時間	週時間数	3時間	
学習到達目標	専門学校2年間の学びの集大成として、各自学科の授業内容からテーマを見つけて研究発表をする			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>			
使用教材	指導担当者作成のプリント			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	17	テーマの選定	各自研究のテーマについて決定する	
	18	研究の進め方	選択したテーマに沿って研究方法等を検討し、研究目的、研究方法を各自プレゼンテーションする	
	19	各自研究Ⅰ	研究計画を作成し、研究を進める (関係資料等の教員指導などを含む)	
	20	各自研究Ⅰ	研究計画を作成し、研究を進める (関係資料等の教員指導などを含む)	
	21	各自研究Ⅰ	研究計画を作成し、研究を進める (関係資料等の教員指導などを含む)	
	22	各自研究Ⅰ	研究計画を作成し、研究を進める (関係資料等の教員指導などを含む)	
	23	中間検討Ⅰ	卒業研究の進捗状況、今後の課題などをプレゼンテーションし、論議する	
	24	各自研究Ⅱ	卒業研究とりまとめを念頭にした計画を作成し、研究を進める	
	25	各自研究Ⅱ	卒業研究とりまとめを念頭にした計画を作成し、研究を進める	
	26	各自研究Ⅱ	卒業研究とりまとめを念頭にした計画を作成し、研究を進める	
	27	各自研究Ⅱ	卒業研究とりまとめを念頭にした計画を作成し、研究を進める	
	28	中間検討Ⅱ	卒業研究のとりまとめにむけて見直しを図り、グループ内で検討しあう	
	29	中間検討Ⅱ	卒業研究のとりまとめにむけて見直しを図り、グループ内で検討しあう	
	30	卒業研究の取りまとめ	卒業研究作成指導、プレゼンテーション指導、報告要旨集作成など	
	31	卒業研究の取りまとめ	卒業研究作成指導、プレゼンテーション指導、報告要旨集作成など	
32	報告会	研究成果の発表		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。				

授業計画(シラバス)

科目名	トレーニング実習ⅡA	指導担当者名	根本 真紀
実務経験	スポーツジムでインストラクターとして従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	スポーツビジネス科2年
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:○
時間数	96時間	週時間数	6時間
学習到達目標	1年次より更に上級のトレーニングについて学ぶ。 各トレーニングの指導ができるようになる。 各トレーニングの方法及びプログラムの立案ができるようになる。(目的別・対象別)		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	JATI トレーニング指導者テキスト(実践編)(実技編)、NSCAジャパン体カトレーニング検定2・3級問題集		
授業外学習の方法	個人でのトレーニング及び、自分自身のプログラムの作成		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	胸部のエクササイズ	ゴールドジム郡山店にて行う。 各種目の実際の動き等を教員及び現場のトレーナーを通じ学ぶ
	2	背部のエクササイズ	
	3	肩部のエクササイズ	
	4	腕部のエクササイズ	
	5	脚部のエクササイズ	
	6	体幹部のエクササイズ	
	7	その他(レジスタンストレーニング)	
	8	クリーン・ジャーク・スナッチについて	
	9	クリーン・ジャーク・スナッチについて	
	10	クイックリフトについて	
	11	クイックリフトについて	
	12	プライオメトリクス 実施と指導上の留意点	
	13	下肢のプライオメトリクス	
	14	上肢のプライオメトリクス	
	15	体幹部のプライオメトリクス	
	16	複合動作でのプライオメトリクス	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	トレーニング実習ⅡB	指導担当者名	根本 真紀
実務経験	スポーツジムでインストラクターとして従事		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	スポーツビジネス科2年
授業方法	講義:	演習:○	実習:○ 実技:○
時間数	96時間	週時間数	6時間
学習到達目標	各種トレーニングにおける応用的なエクササイズを実技にて習得する。 また、トレーニング時の傷害発生の事例などを現場のトレーナーより指導を受ける。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	JATI トレーニング指導者テキスト(実践編)(実技編)、NSCAジャパン体カトレーニング検定2・3級問題集		
授業外学習の方法	個人でのトレーニング及び、自分自身のプログラムの作成		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	持久カトレーニングの指導上の留意点	ゴールドジム郡山店及び学校内施設にて行う。 各種目の実際の動き等を教員及び現場のトレーナーを通じ学ぶ
	18	有酸素性持久カトレーニング	
	19	有酸素性持久カトレーニング	
	20	水中で行う有酸素性持久カトレーニング	連携先プールをお借りし、実施
	21	水中で行う有酸素性持久カトレーニング	
	22	無酸素性持久カトレーニング	ゴールドジム郡山店及び学校内施設にて行う。 各種目の実際の動き等を教員及び現場のトレーナーを通じ学ぶ
	23	スピードトレーニング	
	24	スピードトレーニング	
	25	バランス能力・姿勢支持能力向上のトレーニング	
	26	バランス能力・姿勢支持能力向上のトレーニング	
	27	ウォームアップ(セルフ・ウォーキング)	
	28	ウォームアップ(スキップ・ステップ)	
	29	ウォームアップ(バランス・スピード)	
	30	形態測定及び体力測定の留意点	
31	形態測定		
32	体力測定		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	フィットネス実習ⅡA		指導担当者名	鈴木 光代	
実務経験	フリーランスのフィットネスインストラクターにて従事			実務経験:	有
開講時期	前期	対象学科学年	スポーツビジネス科2年		
授業方法	講義:○	演習:	実習:○	実技:	
時間数	48時間	週時間数	3時間		
学習到達目標	AFAA RT 検定 実技・筆記試験合格を目的として進める。				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>				
使用教材	チューブ、ダンベル、ボール等				
授業外学習の方法					
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	レジスタンス説明	オリエンテーション・PC RT確認		
	2	レジスタンス基本確認	筋肉・骨		
	3	レジスタンス基本確認	筋肉・骨		
	4	レジスタンス基本確認	解剖学用語		
	5	レジスタンス基本確認	解剖学用語		
	6	レジスタンス基本確認	コア・ボール(大)		
	7	カーディオ・筋コン	インストラクション・プレゼン練習		
	8	筋強化	コア・ボール(大)		
	9	筋強化	胸部・肩部(大ボール・小ボール・チューブ)		
	10	RT 理論	ファンダメンタル問題集		
	11	筋強化	上腕部・背部(大ボール・小ボール・チューブ)		
	12	筋強化	臀部・腹部(大ボール・小ボール・チューブ)		
	13	筋強化	脚部(大ボール・小ボール・チューブ)、チーティング練習		
	14	筋強化	脚部(大ボール・小ボール・チューブ)、チーティング練習		
	15	予備日	予備日		
	16	前期まとめ	前期まとめ・反省		
<p>履修上の留意点</p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。</p> <p>対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>					

授業計画(シラバス)

科目名	フィットネス実習ⅡB	指導担当者名	鈴木 光代
実務経験	フリーランスのフィットネスインストラクターにて従事		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	スポーツビジネス科2年
授業方法	講義:○	演習:	実習:○ 実技:
時間数	48時間	週時間数	3時間
学習到達目標	AFAA RT 検定 実技・筆記試験合格を目的として進める。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	チューブ、ダンベル、ボール等		
授業外学習の方法			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	筋強化応用	コア・アッパーボディ・ロアボディ
	18	筋強化応用	コア・アッパーボディ・ロアボディ
	19	筋強化プログラミング	トレーニング効果とプログラミング
	20	筋強化プログラミング	トレーニングメソッド確認
	21	筋強化プログラミング	スポッティング・ツール取り扱い
	22	筋強化プログラミング(問題集)	スポッティング・ツール取り扱い(ファンダメンタル)
	23	筋強化プログラミング(問題集)	スポッティング・ツール取り扱い(ファンダメンタル)
	24	チーティング	エクササイズの間違い探し
	25	RT検定対策セミナー	実技・筆記の重要事項チェック
	26	RT検定対策セミナー	実技・筆記の重要事項チェック
	27	AFAA RT 検定予定(実技)	AFAA RT検定予定(実技)
	28	AFAA RT 検定予定(学科)	AFAA RT検定予定(筆記)
	29	フォロー予備日	年末からの検定&期末試験を含め日程を調整する
	30	フォロー予備日	年末からの検定&期末試験を含め日程を調整する
	31	フォロー予備日	年末からの検定&期末試験を含め日程を調整する
32	2年のまとめ	2年のまとめ	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	スポーツ栄養演習	指導担当者名	庄司 由美子
実務経験	施設での管理栄養士として従事		実務経験: 有
開講時期	通年	対象学科学年	スポーツビジネス科2年
授業方法	講義:◎	演習:○	実習: 実技:
時間数	64時間	週時間数	2時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・広範囲から出題される職に関する正しい知識を身に付け、食生活アドバイザー3級検定の合格を目指す。 ・スポーツ栄養の知識やスキルを正確に習得し、アスリートの競技力向上のための栄養・食事の管理や指導方法を学ぶ。 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツを楽しむための栄養・食事計画(光生館) ・食生活アドバイザー検定3級テキスト&模擬問題(秀和システム) 		
授業外学習の方法			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	もてなし上手になろう	四季と行事食・賀寿のお祝いと通過儀礼・郷土料理
	2	もてなし上手になろう	食材とおいしさ・日本料理の特徴・調理方法
	3	ウェルネス上手になろう	食生活・栄養素の役割・ビタミンとミネラルの働き
	4	ウェルネス上手になろう	代謝・病気と食事の関係・健康
	5	ウェルネス上手になろう	演習問題と解説
	6	もてなし上手になろう	演習問題と解説
	7	買い物上手になろう	食品の分類・食品表示(生鮮食品・加工食品・期限表示) 成分表示(アレルギー表示・栄養成分表示)
	8	買い物上手になろう	食品マークと表示(有機JASマーク等) 演習問題と解説
	9	段取り上手になろう	食中毒・予防・食品の化学変化と保存方法
	10	段取り上手になろう	食品の安全性 演習問題と解説
	11	生き方上手になろう	食マーケット・業種から業態へ、日本の商慣行と特徴
	12	生き方上手になろう	流通の機能 演習と解説
	13	やりくり上手になろう	家計と経済・消費者問題・環境問題
	14	やりくり上手になろう	生活とIT社会・食糧需給率・演習問題と解決
	15	直前対策	合格のための予想模擬問題&解説
	16	直前対策	合格のための予想模擬問題&解説
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	スポーツ栄養演習		指導担当者名	庄司 由美子
実務経験	施設での管理栄養士として従事			実務経験: 有
開講時期	通年	対象学科学年	スポーツビジネス科2年	
授業方法	講義:◎	演習:○	実習:	実技:
時間数	64時間		週時間数	2時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・広範囲から出題される職に関する正しい知識を身に付け、食生活アドバイザー3級検定の合格を目指す。 ・スポーツ栄養の知識やスキルを正確に習得し、アスリートの競技力向上のための栄養・食事の管理や指導方法を学ぶ。 			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>			
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツを楽しむための栄養・食事計画(光生館) ・食生活アドバイザー検定3級テキスト&模擬問題(秀和システム) 			
授業外学習の方法				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	17	スポーツと身体	1、運動時におけるエネルギー供給機構	
	18	スポーツと身体	2、運動後の生理学的回復	
	19	スポーツと身体	3、エネルギー必要量やエネルギーバランスの評価法	
	20	スポーツと身体	4、アスリートの身体(求められる体型)	
	21	スポーツと身体	5、スポーツ・運動と食事管理	
	22	食事提供の基礎	1、献立の基本	
	23	食事提供の基礎	2、食品構成・加重平均	
	24	食事提供の基礎	3、糖質を補給する 4、不足しがちな栄養素	
	25	ライフステージ	1、ジュニア期	
	26	ライフステージ	2、シニア期	
	27	競技特性に合わせた食事計画	主な競技の概要	
	28	競技特性に合わせた食事計画	献立作成実習	
	29	競技特性に合わせた食事計画	献立作成実習	
	30	競技特性に合わせた食事計画	調理実習	
31	競技特性に合わせた食事計画	献立作成実習		
32	競技特性に合わせた食事計画	調理実習		
履修上の留意点				
<p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。</p> <p>対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>				

授業計画(シラバス)

科目名	スポーツイベント運営企画		指導担当者名	大内 広信
実務経験				実務経験:
開講時期	通年	対象学科学年	スポーツビジネス科2年	
授業方法	講義:	演習:	実習:	実技:
時間数	96時間	週時間数	3時間	
学習到達目標	<p>授業を通じて、スポーツイベントや大会の運営に本学生が主体的に関わり、スポーツの素晴らしさを積極的に発信し、人材育成を目指す。</p> <p>①イベントを企画することで非日常を作り、時間、空間を共有し参加者(ターゲット)と楽しむ ②PDCAサイクルを用いて企画、運営、マネジメント能力を養う ③準備、確認作業を怠ることなく社会人に必要なスキルを身につける ④能動的に行動し高いコミュニケーション能力を身につける ⑤成功体験を習得する</p>			
評価方法 評価基準	<p>授業態度、出席率、学習到達目標①～⑤までを基準として評価する 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>			
使用教材	過去の大会事例の資料を用いる			
授業外学習の方法	新聞やインターネットでスポーツ大会を調べる			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	スポーツイベント運営企画の準備	オリエンテーション・自己紹介・事業紹介	
	2	スポーツイベント運営企画の準備	オリエンテーション・自己紹介・事業紹介と過去の大会実績報告	
	3	スポーツイベント運営企画の準備	大会実施に向けての準備、確認作業とグループワーク、各グループ毎の取り組み発表	
	4	スポーツイベント運営企画の準備	大会実施に向けての準備、確認作業とグループワーク、各グループ毎の取り組み発表	
	5	スポーツイベント運営企画の準備	大会実施に向けての準備、確認作業とグループワーク	
	6	スポーツイベント運営企画の準備	大会実施に向けての準備、確認作業とグループワーク	
	7	スポーツイベント運営企画の準備	大会実施に向けての準備、確認作業とグループワーク	
	8	スポーツイベント大会実施	大会実施	
	9	スポーツイベント運営企画の準備	大会後のフィードバック、次回大会に向けての準備	
	10	スポーツイベント運営企画の準備	大会実施に向けての準備、確認作業とグループワーク	
	11	スポーツイベント運営企画の準備	大会実施に向けての準備、確認作業とグループワーク	
	12	スポーツイベント運営企画の準備	大会実施に向けての準備、確認作業とグループワーク	
	13	スポーツイベント運営企画の準備	現場での実習(グループごと)	
	14	スポーツイベント運営企画の準備	現場での実習(グループごと)	
	15	スポーツイベント運営企画の準備	大会実施に向けての準備、確認作業とグループワーク	
	16	スポーツイベント大会実施	大会実施	
履修上の留意点				
出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。				

授業計画(シラバス)

科目名	スポーツイベント運営企画		指導担当者名	大内 広信
実務経験				実務経験:
開講時期	通年	対象学科学年	スポーツビジネス科2年	
授業方法	講義:	演習:	実習:	実技:
時間数	96時間	週時間数	3時間	
学習到達目標	<p>授業を通じて、スポーツイベントや大会の運営に本学生が主体的に関わり、スポーツの素晴らしさを積極的に発信し、人材育成を目指す。</p> <p>①イベントを企画することで非日常を作り、時間、空間を共有し参加者(ターゲット)と楽しむ ②PDCAサイクルを用いて企画、運営、マネジメント能力を養う ③準備、確認作業を怠ることなく社会人に必要なスキルを身につける ④能動的に行動し高いコミュニケーション能力を身につける ⑤成功体験を習得する</p>			
評価方法 評価基準	<p>授業態度、出席率、学習到達目標①～⑤までを基準として評価する 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>			
使用教材	過去の大会事例の資料を用いる			
授業外学習の方法	新聞やインターネットでスポーツ大会を調べる			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	17	スポーツイベント運営企画の準備	新たな企画立案、実施に向けての目標の共有をはかる	
	18	スポーツイベント運営企画の準備	新たな企画立案、実施に向けての目標の共有をはかる	
	19	スポーツイベント運営企画の準備	大会実施に向けての準備、確認作業とグループワーク	
	20	スポーツイベント運営企画の準備	大会実施に向けての準備、確認作業とグループワーク	
	21	スポーツイベント運営企画の準備	大会実施に向けての準備、確認作業とグループワーク、各グループ毎の取り組み発表	
	22	スポーツイベント運営企画の準備	大会前の最終確認	
	23	スポーツイベント大会実施	大会実施(各グループごとに目標の共有、注意事項、確認)	
	24	スポーツイベント運営企画の準備	大会後のフィードバック、次回大会に向けての準備	
	25	スポーツイベント運営企画の準備	大会実施に向けての準備、確認作業とグループワーク	
	26	スポーツイベント運営企画の準備	大会実施に向けての準備、確認作業とグループワーク	
	27	スポーツイベント運営企画の準備	大会実施に向けての準備、確認作業とグループワーク	
	28	スポーツイベント運営企画の準備	大会実施に向けての準備、確認作業とグループワーク	
	29	スポーツイベント運営企画の準備	大会前の最終確認	
	30	スポーツイベント大会実施	大会実施(各グループごとに目標の共有、注意事項、確認)	
31	スポーツイベント運営企画の準備	まとめと授業発表		
32	スポーツイベント運営企画の準備	まとめと授業発表		
<p>履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>				

授業計画(シラバス)

科目名	スポーツイベント運営実習Ⅱ	指導担当者名	根本 真紀
実務経験			実務経験:
開講時期	通年	対象学科学年	スポーツビジネス科2年
授業方法	講義:	演習:	実習:◎ 実技:○
時間数	32時間	週時間数	32時間
学習到達目標	スポーツイベント運営を通して、ビジネスのPDCAサイクルを体験。 校内イベントの作成、運営		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席2/3以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	講師作成プリントや資料。		
授業外学習の方法			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8	スポーツイベント大会実施	学生自ら試案したイベントの実施
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16	スポーツイベント大会実施	学生自ら試案したイベントの実施
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	スポーツイベント運営実習Ⅱ	指導担当者名	根本 真紀
実務経験			実務経験:
開講時期	通年	対象学科学年	スポーツビジネス科2年
授業方法	講義:	演習:	実習:◎ 実技:○
時間数	32時間	週時間数	32時間
学習到達目標	スポーツイベント運営を通して、ビジネスのPDCAサイクルを体験。 校内イベントの作成、運営		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席2/3以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	講師作成プリントや資料。		
授業外学習の方法			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17		
	18		
	19		
	20		
	21		
	22		
	23	スポーツイベント大会実施	大会実施(各グループごとに目標の共有、注意事項、確認)
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30	スポーツイベント大会実施	大会実施(各グループごとに目標の共有、注意事項、確認)
31			
32			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	トレーニング概論A	指導担当者名	根本 真紀
実務経験	インストラクターとして従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	スポーツビジネス科2年
授業方法	講義:○	演習:○	実習: 実技:○
時間数	64時間	週時間数	2時間
学習到達目標	JATI-ATI の取得を目標とし、スポーツ・健康・フィットネス分野に対応できる基礎的な知識を習得する。 NSCAジャパン体カトレーニング検定2級の取得		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	トレーニング指導者テキスト(理論編)(実践編)(実技編)、ワークノート(一般科目)(専門科目)		
授業外学習の方法	各自でのトレーニング及び自宅学習として課題作成し配布		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	体カトレーニング総論	体力の概念・体力の要素
	2	体カトレーニング総論	体力モデル・一般的体力と専門的体力
	3	機能解剖	上肢について
	4	機能解剖	脊柱及び胸郭について
	5	機能解剖	下肢について
	6	バイオメカニクス	バイオメカニクスの基礎理論
	7	バイオメカニクス	トレーニング時・スポーツにおけるバイオメカニクス
	8	運動生理学	呼吸循環系・エネルギー代謝と運動
	9	運動生理学	運動とトレーニング代謝
	10	運動生理学	骨格筋系、神経系、内分泌系と運動
	11	運動と栄養	運動と栄養の基礎理論
	12	運動と栄養	対象と目的に応じた栄養摂取
	13	運動と医学	生活習慣病、スポーツ外傷
	14	運動と医学	救急救命法
	15	運動と心理	運動と心理の基礎理論
	16	運動と心理	運動学習と指導法
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	トレーニング概論B	指導担当者名	根本 真紀
実務経験	インストラクターとして従事		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	スポーツビジネス科2年
授業方法	講義:○	演習:○	実習: 実技:○
時間数	58時間	週時間数	2時間
学習到達目標	JATI-ATI の取得を目標とし、スポーツ・健康・フィットネス分野に対応できる基礎的な知識を習得する。 NSCAジャパン体カトレーニング検定2級の取得		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	トレーニング指導者テキスト(理論編)(実践編)(実技編)、ワークノート(一般科目)(専門科目)		
授業外学習の方法	各自でのトレーニング及び自宅学習として課題作成し配布		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	トレーニング指導者論	トレーニング指導者の役割
	18	トレーニング指導者論	トレーニング指導者の実務
	19	測定と評価	トレーニング効果の測定と評価
	20	測定と評価	測定データの活用法
	21	トレーニング理論とプログラム	長期的トレーニング計画
	22	トレーニング理論とプログラム	レジスタンストレーニング・持久力向上トレーニング
	23	トレーニング理論とプログラム	パワー向上トレーニングの理論及びプログラム・持久力向上トレーニングの理論及びプログラム
	24	トレーニング理論とプログラム	スピード向上トレーニング・特別な対象のためのトレーニングプログラム
	25	トレーニング理論とプログラム	柔軟性向上トレーニング～リカバリー
	26	トレーニング理論とプログラム	高齢者や子供に対するトレーニングプログラム
	27	トレーニング理論とプログラム	生活習慣病、傷害のトレーニングプログラム
	28	トレーニングの実技と指導法	レジスタンストレーニングの実技と指導法
	29	トレーニングの実技と指導法	パワートレーニングの実技と指導法
	30	トレーニングの実技と指導法	持久力向上トレーニングの実技と指導法
31	トレーニングの実技と指導法	スピードトレーニングの実技と指導法	
32	トレーニングの実技と指導法	その他のトレーニングの実技と指導法	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	マーケティング概論Ⅱ	指導担当者名	武田 佑介
実務経験	マーケティング業界にて、実務経験10年間		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	スポーツビジネス科2年
授業方法	講義:○	演習:	実習:○ 実技:
時間数	16時間	週時間数	1時間
学習到達目標	マーケティングや消費者行動を学ぶことで、ビジネスユースにあったモノの考え方、捉え方、お客様の行動に関して、仮説を立て活用できるようにする。 仲間と意見を出し合い、まとめて自分なりにプレゼンテーションできるようにする。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点)(優)、B(70点~79点)(良)、C(60点~69点)(可)、D(0点~59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材			
授業外学習の方法			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	イントロダクション	学習の目的を考えよう！ マーケティングの基礎を体験しよう！
	2	マーケティング基礎	マーケティングを学ぶ必要性は？ マーケティングの全体像を理解しよう
	3	マーケティング基礎	STPIについて理解しよう！ STPの事例からマーケティングを考える
	4	マーケティング基礎	グループワーク 仮想サービスのアイデアを考えよう！
	5	マーケティング戦略・プランニング	グループワーク アイディアを整理して方向性を決める
	6	マーケティング戦略・プランニング	グループワーク 競合分析
	7	マーケティング戦略・プランニング	グループワーク 3C分析
	8	マーケティング戦略・プランニング	グループワーク セグメンテーション
	9	マーケティング戦略・プランニング	グループワーク ターゲティング
	10	マーケティング戦略・プランニング	グループワーク ポジショニング
	11	マーケティング戦略・プランニング	グループワーク マーケティングミックス
	12	マーケティング戦略・プランニング	グループワーク ペルソナ設定
	13	マーケティング戦略・プランニング	グループワーク カスタマージャーニー
	14	マーケティング戦略・プランニング	グループワーク まとめ
	15	マーケティング戦略・プランニング	グループワーク まとめ
	16	マーケティング戦略・プランニング	プレゼンテーション
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	Excel実習		指導担当者名	遠藤 紀子
実務経験				実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	スポーツビジネス科2年	
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:
時間数	32時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	MicrosoftExcel2021の操作方法及び、基本的なワークシートの作成、グラフ、データベースの機能を学習し、ビジネスユースにあった計算処理能力を身につけることで実践で活用できるようにする。 また、7/28に行われる、「Excel文書処理技能認定試験3級」の取得を目指す。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点)(優)、B(70点~79点)(良)、C(60点~69点)(可)、D(0点~59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	Excel2021クイックマスター基本編、Excel表計算処理技能認定試験3級問題集			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 前期	1	Excelの基本、データの編集	Excelの基本操作、データ入力等	
	2	データの編集、表の編集	数式の入力、罫線の設定等	
	3	表の編集、ブックの印刷	表示形式の設定、印刷の実行等	
	4	グラフと図形の作成	グラフ・図形の作成、編集等	
	5	ブックの利用と管理、関数	ワークシートの管理、統計関数等	
	6	関数	数学、論理関数等	
	7	データベース機能	リストの作成、並べ替え、データの抽出等	
	8	総合学習問題		
	9	練習問題1	問題集	
	10	練習問題2	問題集	
	11	練習問題3	問題集	
	12	模擬問題1	問題集	
	13	模擬問題2	問題集	
	14	模擬問題3	問題集	
	15	期末テスト		
	16	問題演習	問題集	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。				

授業計画(シラバス)

科目名	スポーツ実習	指導担当者名	根本 真紀
実務経験	インストラクターとして従事		実務経験: 有
開講時期	通年	対象学科学年	スポーツビジネス科2年
授業方法	講義:○	演習:	実習:○ 実技:○
時間数	64時間	週時間数	2時間
学習到達目標	バレーボール・バスケットボール・バドミントンなどを仲間とともに楽しみ、技術的に上達し身体の使い方やルールを理解する。 筋力トレーニングの基礎と応用を理解する。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	資料配布		
授業外学習の方法	各自でのトレーニング及び自宅学習として課題作成し配布		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	オリエンテーション	スポーツ競技について学ぶ
	2	準備運動・ストレッチ	準備運動・ストレッチの仕方を学び実践する
	3	各競技のルール	各競技のルールについて理解する
	4	バスケットボール	ルール説明・基礎技能
	5		グループ練習・試合
	6		グループ練習・試合
	7		グループ練習・試合
	8	バレーボール	ルール説明・基礎技能
	9		グループ練習・試合
	10		グループ練習・試合
	11		グループ練習・試合
	12	ソフトボール	ルール説明・基礎技能
	13		グループ練習・試合
	14		グループ練習・試合
	15		グループ練習・試合
	16	まとめ	期末テストの実施及び自分自身のトレーニングプログラムの作成
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	スポーツ実習	指導担当者名	根本 真紀
実務経験	インストラクターとして従事		実務経験: 有
開講時期	通年	対象学科学年	スポーツビジネス科2年
授業方法	講義:○	演習:	実習:○ 実技:○
時間数	64時間	週時間数	2時間
学習到達目標	バレーボール・バスケットボール・バドミントンなどを仲間とともに楽しみ、技術的に上達し身体の使い方やルールを理解する。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	資料配布		
授業外学習の方法	各自でのトレーニング及び自宅学習として課題作成し配布		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	バドミントン	ルール説明・基礎技能
	18		グループ練習・試合
	19		グループ練習・試合
	20		グループ練習・試合
	21	卓球	ルール説明・基礎技能
	22		グループ練習・試合
	23		グループ練習・試合
	24		グループ練習・試合
	25	ドッジボール	ルール説明・基礎技能
	26		グループ練習・試合
	27		グループ練習・試合
	28		グループ練習・試合
	29	サッカー	ルール説明・基礎技能
	30		グループ練習・試合
	31		グループ練習・試合
	32		グループ練習・試合
<p>履修上の留意点</p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。</p> <p>対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	テーピング&ストレッチングⅡ		指導担当者名	根本真紀・外部講師
実務経験	インストラクターとして従事			実務経験： 有
開講時期	前期	対象学科学年	スポーツビジネス科2年	
授業方法	講義：○	演習：○	実習：	実技：
時間数	20時間	週時間数	10時間	
学習到達目標	ストレッチングの基礎及びテーピングの基礎知識の習得 キネシオテーピング協会 認定トレーナーの取得を目指す			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	スポーツジム外傷障害からみたテーピングの実技と理論(文光堂)			
授業外学習の方法	自身のトレーニングや運動に実施し復習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1			
	2			
	3			
	4			
	5	テーピング講習	テーピングとは、スポーツ外傷について	
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12	ストレッチング	ストレッチングに伴う解剖学について、動的および静的ストレッチング	
	13			
	14			
	15			
	16			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。				